



## 特許翻訳の特殊性

ホアン・打田特許翻訳有限公司  
代表取締役

打田治枝



OMA

女性経営者シリーズ

弊社は、特許を専門とする翻訳会社です。翻訳会社としては珍しく、翻訳業務はフリーランス翻訳者に頼ることなく、大半は大阪北浜のオフィスに勤務する十数名の社内翻訳者が行っています。英語を母国語とするいわゆる「ネイティブ」の翻訳者も常駐しています。翻訳チェックを行うのも翻訳者です。翻訳能力のない専任のチェッカーではなく、翻訳者同士で互いの翻訳をチェックしています。

特許翻訳は、非常に特殊な分野です。翻訳する対象は高度な最先端技術でありながら、特許権を取得するための法律文書でもあります。日本の製品を外国で販売するために特許権は非常に重要です。その権利範囲を決めるのが「請求の範囲」です。その範囲を厳密に明確に規定しなければなりません。私達は、日本語で規定された権利の範囲を英語にするという仕事を行っています。このような性質上、他の分野の翻訳とは重視する点が異なります。

特許翻訳で最も重視されるのは、「正確さ」です。他の分野の翻訳であれば、日本語を英語にする場合、英語を母国語とする人が読みやすいように、日本語と多少意味が違っていても、より英語らしい表現が好まれます。しかし、特許翻訳の場合、そういうわけにはいきません。意味の正確さを犠牲にして英語らしい表現を用いることはできません。常に「正確さ」が優先されます。

では、「正確さ」とは、何でしょうか。日本語から英語に翻訳する場合、日本語の語句を1つ1つ英単語に置き換える作業でしょうか。そうではありません。「正確な翻訳」というのは、「意味が全く同じ」ということです。特許の権利範囲を明確にするわけですから、原文と全く同じ範囲を表す英文を作成しなければなりません。丸いもの

は丸く、四角いものは四角に、完全に同じ面積をもった合同の形を持つ翻訳文にしなければなりません。意味が、完全に重なり合わなければならぬのです。

私達は、このことを念頭に翻訳を行っています。私自身、英語ネイティブの翻訳者と一緒日々仕事をする中で多くのことを学んでいます。先日、ネイティブ翻訳者が、或る文中の或る単語を単数形にするか複数形にするかで悩んでいました。単数か複数かは単に数の問題であるだけでなく、文全体の意味を左右します。冠詞や前置詞についても、些細な違いが大きな違いを生む場合があります。また、1つの日本語に対応する英単語が複数ある場合、その選択を間違えば全く意味をなさない英文となります。ですから、辞書で拾ってきた語句を原文の語句に置き換え、ジグソーパズルのようにきれいに嵌め込んだとしても、完成された絵は、原文が表していた元の絵とは全く違うということが起こり得ます。

このように、私達は、翻訳文における微妙な差異に頭を悩ませながら、正確な翻訳文を作成するために日々奮闘しています。

### プロフィール

平成7年 特許事務所内で社内翻訳者として勤務開始以来、特許翻訳に携わる。

平成12年 特許事務所での同僚翻訳者ホアンと共にホアン・打田特許翻訳有限公司設立

平成17年 ホアンのドイツ帰国に伴い、代表取締役に就任

事業内容：知的財産権に関する文書の翻訳

<http://www.horn-uchida.jp/>